

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山東部小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

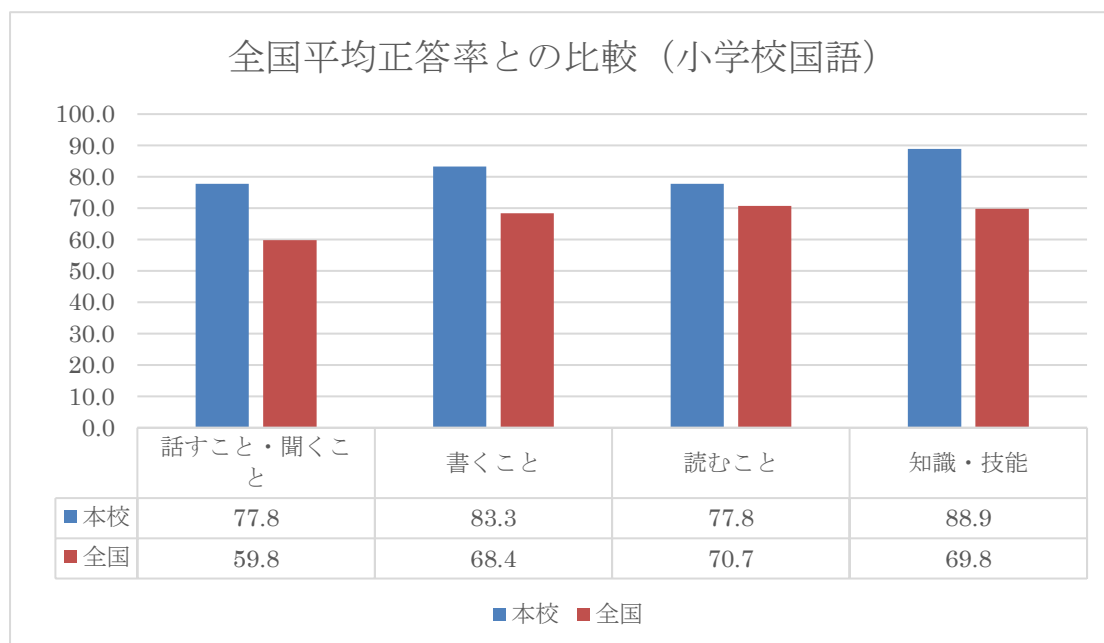
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察



1 国 語

(1) 結 果

全ての領域で全国平均正答率を上回っています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「知識・技能」の 3 領域では、全国平均正答率を大きく上回っています。全ての領域で無解答もありませんでした。

(2) 成果と課題

「話すこと・聞くこと」は、全国正答率を 18 ポイント上回っています。これは、継続的に全校スピーチに取り組んでいることの成果が表れていると考えられます。

「知識・技能」も、全国正答率を 19.1 ポイント上回っています。普段からの漢字や言葉の学習、音読などの家庭学習を継続している成果が表れていると考えられます。

「読むこと」も全国正答率を上回っています。しかし、上回り方は、7.1 ポイントで他の領域に比べて小さいので、最後までしっかりと問われていることを読み取る習慣を身に付けさせる必要があります。

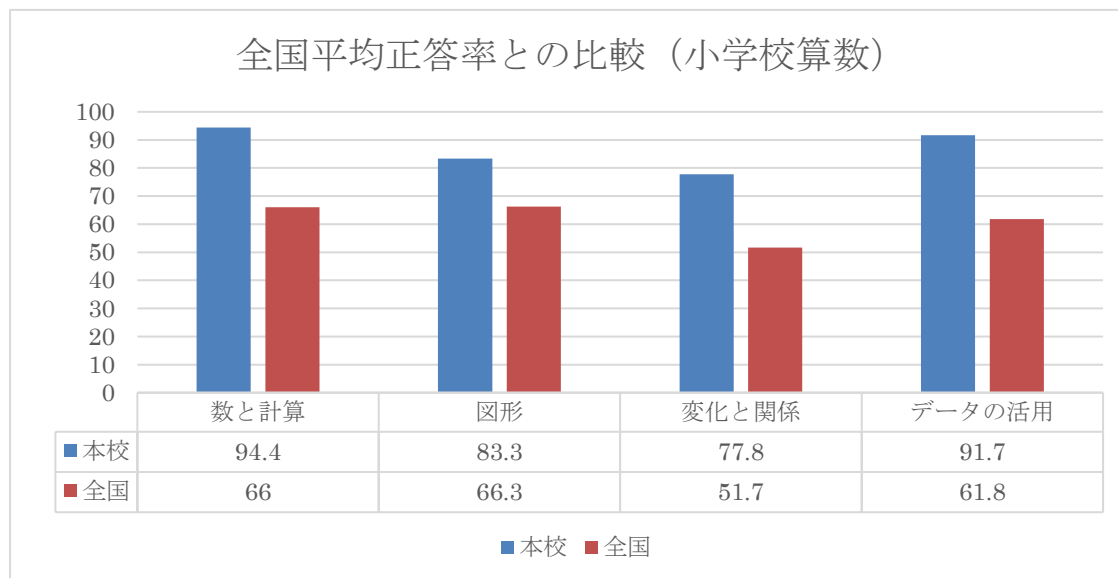
(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 複式授業時に自分たちだけで学習を進める時も自分のめあてをもって主体的に学べるように、授業の在り方を工夫していきます。
- 「読むこと」では、しっかり読み取り、読み取った内容をお互いに伝え合う活動を取り入れます。
- 少人数を生かして個別指導を丁寧に行い、基本的な「知識・技能」の定着を図ります。

【ご家庭では】

- 語彙が増えることは、ものを考えるときの手助けになります。また、自分の気持ちをより正確に伝えるときの手段になります。お子様の語彙を増やすために読書の習慣をつけさせましょう。一緒に読書することも効果的です。
- お子様と会話を楽しみましょう。新聞記事やテレビニュースから話題をあげ、自分の考えを話したりお子様の考えを聞いたりしましょう。共感したり根拠を尋ねたりしてお互いの考えを交流しましょう。



(1) 結 果

全ての領域で全国平均正答率を大きく上回っています。

(2) 成果と課題

「数と計算」「データの活用」では、正答率が90%を超えています。日頃の学習指導の成果であり、基礎基本がしっかりと身に付いていることの表れであると思われます。

「記述式問題」では、「選択式問題」「短答式問題」に比べて正答率が低く、課題が見られました。授業で自分の考えを式や言葉を使って論理的に書く学習を多く取り入れる必要があります。また、家庭学習の内容を見直していく必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 一人ひとりの学習状況を確実に把握し、個に応じた基礎基本習得のための補充学習と活用力向上のための発展的な学習を取り入れていきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、思考力の向上に努めます。
- 家庭学習にも、記述式問題を活用して、自分の考えを分かりやすく説明する力を伸ばしていきます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 算数で学習したことを生活に生かすようにさせましょう。「買い物で場面代金・おつり・割合(%)」「おかし数えでかけ算」「料理で重さ・かさ」「おり紙で分数」「家の中で図形探し」「ドライブで速さ・時間・道のり」等、身の回りには、算数が見えるものがたくさんあります。生活の中で算数を使うことで算数が好きになると考えられます。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	100%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	66.7%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	66.7%	43.4%
人が困っているときは、進んで助けていますか。	100%	46.0%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	100%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	100%	79.5%

規則正しく生活することができています。「早寝・早起き・朝ごはん」は、学力の向上に関連が強い大切な生活リズムです。今後も家庭と学校が協力して習慣化していきましょう。

規範意識について、肯定的な回答をした児童は、全国平均よりも高い結果が出ています。学校でもリーダーとして下級生のお世話をよく頑張っています。また、友達と協力しながら楽しく学校生活を送ることができています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	0%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	33.3%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	66.7%	27.0%
「30分より少ない」	0%	13.0%
「全くしない」	0%	5.3%

2時間以上勉強していると回答した児童は、いません。それでも、学力が高いのは、授業時に集中して学習し、家庭学習も継続して行っている成果であると考えます。今後も家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校教育目標の柱である「進んで学習」「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」「自分も友達も大切に」を常時子どもたちに意識させるようにしています。
- 家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味や計画の立て方を児童に伝えて習慣化するように指導をしていきます。
- 図書委員会を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が表れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- お子さんと話し合って、学習時間を確保してください。学習時間のめやすは、「10分×学年+30分」（宿題や自学・読書等を含む）です。
- 子どもが勉強している時は、テレビを消す等、落ち着いて学習できる環境を整えてください。
- 読書の時間を確保してください。親子で同じ本を読んで感想を話し合うこともおすすめします。
- 規則正しい生活と家庭学習が定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。